

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目

シカゴ美術館の起源と所蔵和古書

氏 名

KUHN Michelle Louise

論 文 内 容 の 要 旨

シカゴ美術館 (Art Institute of Chicago) には、多くの和古書が所蔵されているが、現在に至るまでデジタル・データベースは整備されていない。また、資料を撮影した画像もない。国文学研究資料館は「日本古典籍総合目録データベース」と「コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース」を提供しているが、主に米国で所蔵されている本を対象としていないため、シカゴ美術館蔵本もこの二つのデータベースには含まれない。古文化財科学研究会編『海外所在日本美術品調査』は主に、掛け軸、屏風、絵巻物、画帖等の美術品に限定されており、和古書の存在が軽視されがちである。

本論の第一章では、日本国内の明治時代の博覧会前後に開催された万国博覧会というコンテキストにおける美術と応用芸術間の議論について取り上げた。それらを踏まえたのち、アメリカの日本コレクションの一つ、近代日本に関する千冊以上の蔵書を有するシカゴ美術館の起源をたどった。第一節では、一八五一年の最初の万国博覧会であったイギリスのクリスタル・パレスから、日本国内博覧会の歴史と日本政府が正式に参加した最初の万博のウィーン万博 (一八七三年)、一八九三年のシカゴ万博までを論じた。最後に、シカゴ美術館の起源について検討をしながら、シカゴ以外の他のコレクションと万国博覧会との関係をも明らかにした。

第二章では、シカゴ美術館蔵三十六歌仙版本について論じた。シカゴ美術館には合計五種類、七冊の本が所蔵されている。第一節では嵯峨本の歴史と先行研究を整理した。続く第二節ではシカゴ美術館の三十六歌仙の版本の一つ、青色表紙嵯峨本について書誌的な問題を考察した。この本は初版とされるが、実はハーバード・アート・ミュージアム本の再版に一致する。第三節と第四節では、シカゴ美術館の従来 of 書誌の誤りを訂正した。菱川師宣の三十六歌仙として認定されてきた本は実際には、嵯峨本の編集者本阿弥光悦による『歌仙大和抄』である。第四節では、新たに北村季吟の『六六私抄』の版本を紹介した。第五節では勝川春章画の三十六歌仙について、他の現存

本と比較し、相異点について考察した。初版と比べ、再版本であるシカゴ本では鮮やかな彩色がなされ、新たなイメージが与えられていることを指摘した。第六節では小野小町の画像の分析を通し、喜多武清の三十六歌仙について論じた。最後の第七節では、以上の五種の版本に現れる小野小町の和歌選択と肖像の意味について論じた。嵯峨本、『歌仙大和抄』、『六六私抄』は業兼本の小町の姿勢を模倣している。一方で、喜多武清による版本は佐竹本に類似する。和歌については、嵯峨本と『歌仙大和抄』は他の版本と異なり、三十六歌仙に収められていない和歌が選択されている。

第三章では、江戸時代の雛形本に取り上げられた『百人一首』の女流歌人について考察した。まず第一節では、貞享四年（一六八七）に出版された小袖文様の雛形本『源氏ひいながた』に現れる和泉式部と小野小町の謡曲との関わりについて明らかにした。『源氏ひいながた』では、二十七の女性とそのイメージが模様の素材として選ばれているが、小袖文様の他、各女性を紹介する文章がある。江戸時代の小袖模様は謡曲を素材とするものが多いが、和泉式部と小野小町の模様は他の雛形本に見ない謡曲を踏まえている。第二節では、式子内親王と小式部内侍について考察した。『百人一首』の女性作者は『源氏ひいながた』のみならず、他の雛形本でも小袖の模様の素材になっており、例えば、『小倉山百首雛形』に描かれている。この『小倉山百首雛形』は、管見の限り、上巻が武雄市鍋島家文書に、下巻がシカゴ美術館に残るのみである。

第四章では、『源氏ひいながた』で見られる「若むらさき」と「あかしの上」の模様の再検討を行った。「若むらさき」の模様は「むらさき」色のカキツバタにより暗示されている。「紫式部」の模様でも同じくカキツバタが描かれており、その解釈の正当性が確認できた。一方で、「あかしの上」の模様に見える「須磨浦」という文字と「忍ぶ草」には様々の解釈の可能性があるが、本研究では新しい解釈を示した。すなわち「溢れる水」が光源氏的心情、「忍ぶ草」が明石の君、「桜の花」が紫の上を象徴し、三者の緊張した関係を示しているという解釈である。

以上のようにシカゴ美術館所蔵の資料には江戸時代の版本の研究に重要な意義を有するものが多く、さらなる調査と研究の発展が望まれる。





